八ヶ岳

ヤツガタケキスミレ

コマクサ

ヤツガタケキスミレ

近年は梅雨前線の動きも不安定で、空梅雨だったりゲリラ豪雨だったりとなんだか落ち着かない。２０２０年７月は雨ばかり降っていた記憶がある。当時の手帖を見返すと「調査雨で中止」とか「地区作業延期」などのメモが書いてある。

僕はスミレに狂っていた時期で、どうしても八ヶ岳固有のヤツガタケキスミレを見に行きたいと、清水岳志さんと尾関雅章さんを誘って山行を計画したのだが、当日が近づくにつれ天気予報が悪い方にずれ始めた。最初に予定をしていた７月１３～１４日のうち、メインとなる１４日は雨の確率が極めて高くなってきたのだ。前日の１２日は晴れの予報であるが、午前中は観察会の予定が入ってしまっていて身動きができない。どうするか…。

１２日の朝になって清水さんと尾関さんに電話をいれ、急遽予定を変更して１２日午後に入山することにした。観察会を終えてから飯田を出て、南八ヶ岳の登山口である美濃戸（みのと）へ向かう。駐車場に車を止めて１５時半に登山口を出発し、１７時に赤岳鉱泉にたどり着いた。テント場で尾関さんと落ち合って酒を酌む。夜中にヨタカの声が聞こえた。明日の天気はどうだろうか。

朝から霧が巻いているが雨は降っていない。６時前にテント場を出て硫黄岳に向かう。硫黄岳山荘を過ぎたあたりから、コマクサやウルップソウに混じって、ヤツガタケキスミレがチラホラと見られるようになった。水分をしっかりと含んだ濃い霧は顔にまとわりついて眼鏡のレンズを曇らせ、花々の花弁からは水滴となって滴り落ちた。ヤツガタケキスミレは横岳から赤岳にかけての砂礫地にひろくみられ、毛が生えてツヤのない特徴的な葉を真っ白い霧の中に浮かび上がらせていた。

一瞬ガスが晴れて、赤岳が見えた

調査日：2020 年 7 月 12-13 日
調査者：四方圭一郎・清水岳志・尾関雅章